

環境への取組み

JR東日本では、1992年にエコロジー推進委員会を発足してから、省エネルギーや沿線環境保全等の各分野で様々な取組みを進めてきました。また、環境の取組み及びトレースについては、環境目標を定め毎年CSR報告書にまとめてきました。

2009年にJR東日本研究開発センター内に「環境技術研究所」を、2010年に経営企画部内に「環境経営推進室」を設置し、企業としての持続的発展をはかりながら、環境保護における社会的責任を果たし、地球環境問題に積極的かつ長期的に取り組む体制を強化しています。

今後も、「グループ経営構想V～限りなき前進～」で掲げた「創エネ」「省エネ」「スマートグリッド技術の導入」などの「エネルギー・環境戦略」をグループ一体となって推進していきます。

2030年度目標

環境保全活動の分類	項目	2030年度達成目標
地球温暖化防止への取組み	鉄道事業のエネルギー使用量	25%削減（2013年度比）
	鉄道事業のCO ₂ 排出量	40%削減（2013年度比）

2020年度目標と2016年度実績

環境保全活動の分類	項目	2020年度達成目標	2016年度実績
地球温暖化防止への取組み	鉄道事業のエネルギー使用量	6.2%削減（2013年度比） 517⇒485(億MJ)	2.9%削減 502(億MJ)
	単位輸送量あたり列車運転用電力量	新幹線:5.1%削減（2013年度比） 2.49⇒2.36(kWh/車両キロ) 在来線：8.3%削減（2013年度比） 1.59⇒1.46(kWh/車両キロ)	新幹線:2.0%削減 2.44(kWh/車両キロ) 在来線：6.0%削減 1.49(kWh/車両キロ)
	支社等における 単位床面積あたりエネルギー使用量	10.0%削減（2013年度比） 0.0407⇒0.0366(kL(原油換算)/㎡)	7.6%削減 0.0376(kL(原油換算)/㎡)
	エコステモデル駅の整備	累計 12箇所	累計 6箇所
	ホーム・コンコース照明のLED化 (2014～20年度内)	24.4万台中3.6万台の導入 8,300万MJの削減	累計 2.1万台 (4,400万MJの削減)
	大型空調設備の高効率化 (2014～20年度内)	10箇所 8,200万MJの削減	累計 6箇所 (5,700万MJの削減)
	グループ会社各社の エネルギー使用量原単位の削減率	各社が毎年1%削減	グループ会社全体で 2.2%削減（2015年度比）
資源循環への取組み	駅・列車ゴミのリサイクル率	94%	93%
	総合車両センター等で発生する 廃棄物のリサイクル率	96%	95%
	設備工事で発生する 廃棄物のリサイクル率	96%	92%
	グループ会社における リサイクル実施率	100%	100%
環境マネジメント	グループ会社各社が 独自に具体的数値目標を設定	継続して目標設定	設定済

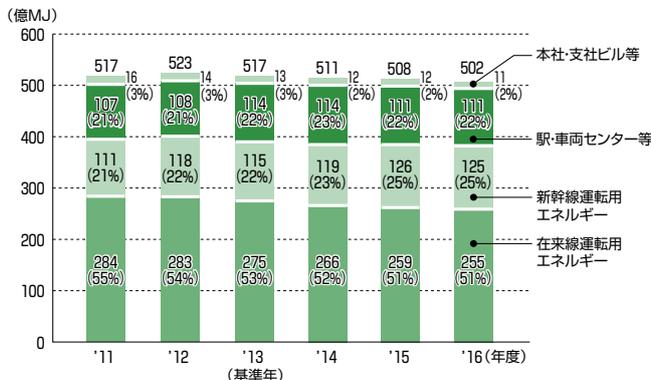
■ はグループ全体の目標

地球温暖化防止への取組み

JR 東日本が使用する電力は、自営の発電所と電力会社から供給され、電車の走行や駅・オフィスの照明・空調に使用しています。また軽油や灯油等をディーゼル車の走行や駅・暖房の空調に使用しています。

消費エネルギーの約8割を占める列車運転用エネルギーの削減を引き続き進めるほか、事業所等においてもエネルギー削減施策に取り組んでいきます。

○ JR 東日本 消費エネルギーの構成



※算出方法の変更について

エネルギー消費量およびCO₂排出量は、エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)および地球温暖化防止策の推進に関する法律(温対法)に定める方法で算出しています。

※上記の消費エネルギーは、省エネ法の考え方にに基づき算定していますが、自営水力発電量に対しては、9.76MJ/kWhを掛けて計算しています。省エネ法上の報告は、自営水力発電量に対して、0MJで報告しています。

○ JR 東日本 CO₂ 総排出量の推移



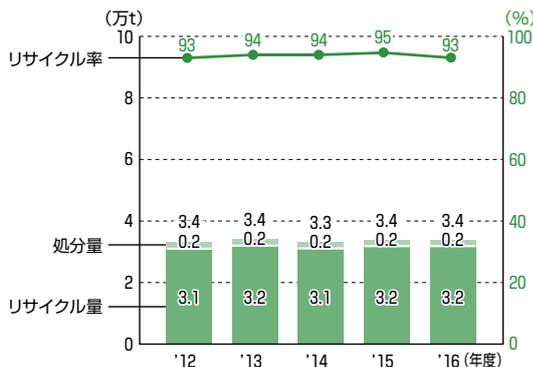
資源循環の取組み

駅や列車から日々排出される廃棄物、総合車両センターからの産業廃棄物、さらに生活サービス事業における飲食業の生ゴミや小売業の一般廃棄物等、JR 東日本グループから排出される廃棄物は多種多様です。

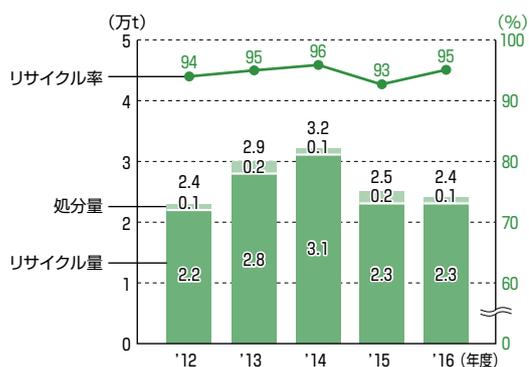
鉄道事業や生活サービス事業等から排出される多様な廃棄

物を削減するために、発生の抑制(リデュース)、再利用(リユース)、再資源化(リサイクル)を進めているほか、特にリサイクルについては廃棄物の種類ごとに達成目標を定めて取組みを進めています。

○ 駅・列車からのゴミの推移



○ 総合車両センター等からの廃棄物の推移



○ 設備工事からの廃棄物の推移

